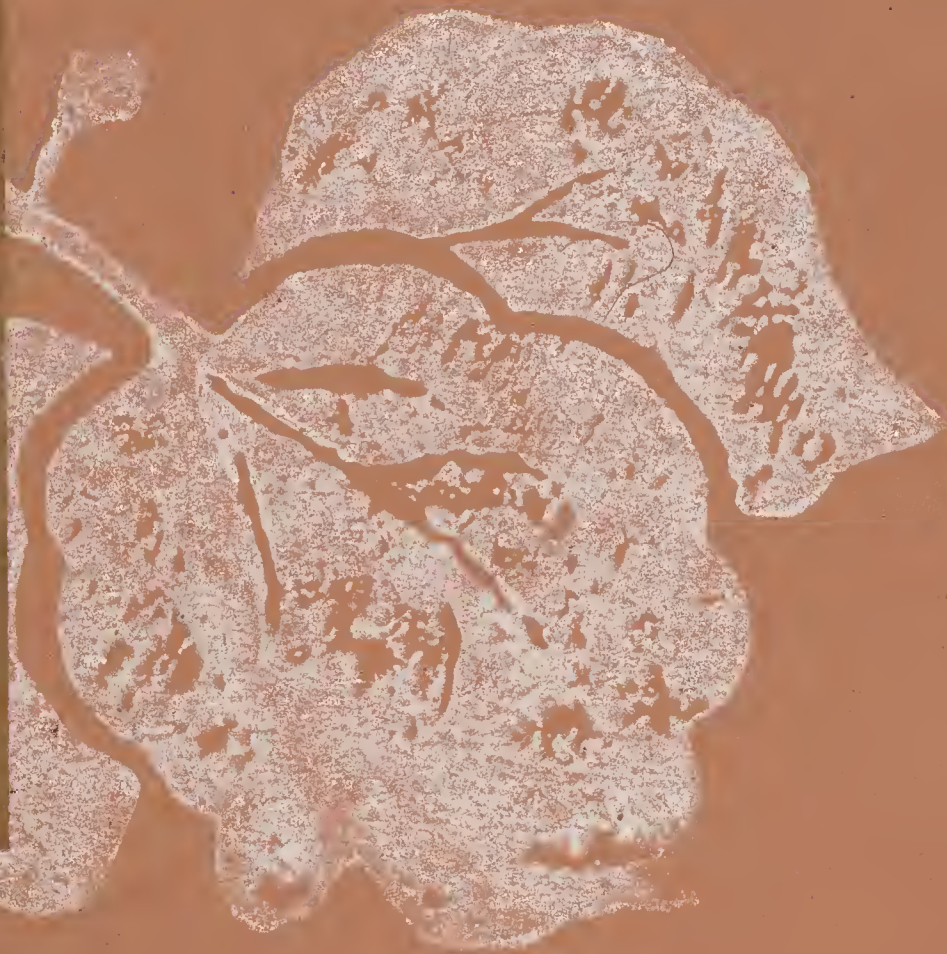
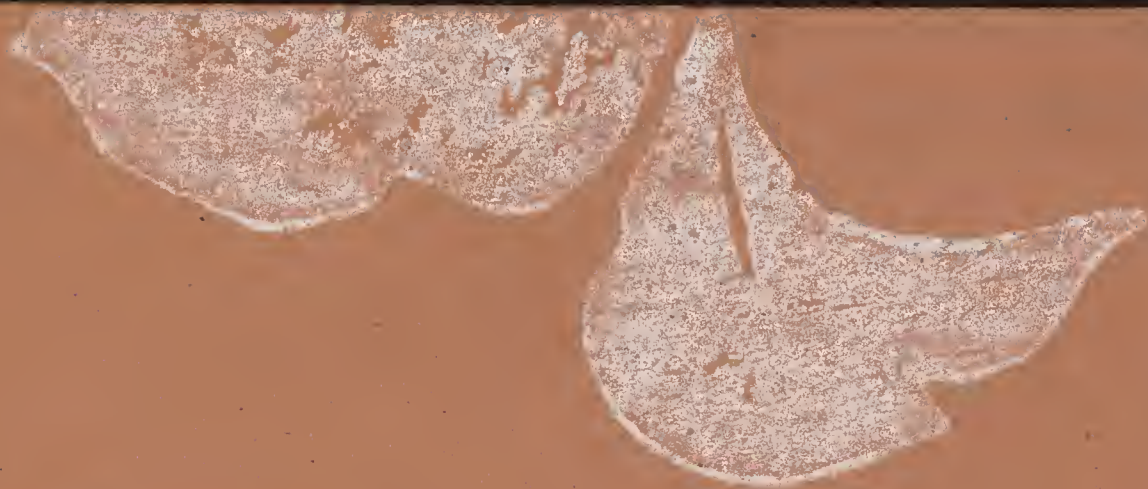


新
院



項才

年迄悔つゝ妻が通やぐを子

孰に急ぐ
是ハ東國ナリ

此は、傍らに我々と共に

ふんむのむすふ

養

上
三
以

し
家
之
片
や
露
の
関
を

世をさへてくぐりぬかむ

武苑聖方考

山又や乃やをうてはあゝの
定も地り清くや梅のうけに
うるしきく 急に能くおに

暑くは又是なる梅を見らん
と我盛とみえらん けの極みの
なまゝも 冬はあゝ里を
人よ乃りや見おしひるをぬい

は梅ハ和歌式すちや
ほめりやと思ひん かな

あまがぬは梅を人みゆ
く人へ何と交りてきく
人依人ふれらん 人よ
一はあきくをへて人ひ
あやうあきくをへて

梅乃名をぬふ木もこの寺に梅
 園もこの申へを我々ぬふ人表
 中さいふもこの竹ふへ
 びさうとこの上東つ院の御時
 我々此の梅を柱をき軒端に
 梅と名付つぬれさけはぬ
 新の一室なるわが狂よえあふ

我乃無ん小強強をも強補
 強もく強強の法利益ともなる
 通ふなるこ強こ強
 強竹ひ——強端乃梅もく強
 強こハ強強強強こ強ひ
 強端乃梅もく強ひこ強こ強
 強強こハ強強強強の法体は

1
 2
 3
 4
 5

五

和氣

式部のかんがえりをも

かへりてききふにをぬ

あ
め
う
し
か
き
あ
ね
ハ

古乃^なを^を子^こに^に不^ふ有^有形^形見^見。久

兼もある一志を以て

明なりなすにさ

見也。以爲氣色猶昔哉。

月を少府寺軒端乃

梅久し閑くあるを志す人

久しきの天香雪子なりて世に

上羊地

大志
一
二

三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

情めはあつも思ふ乃ちや者の

春な〜ぬゑかひとわす心なき
獨ももつをる雪のふかきを
旅よとふささきみ露乃をに
開るももは花よ世ものを
さもは花小住うと皮とふを
ちあり花雪乃村あり花も
うふをほもあはあ

上地

花乃信よ春は〜と見え
あ〜もあ〜梅のあ〜も
夕と花がしほ花乃信よ本隠て
る〜さわきま〜とさるみえは
成〜とわ〜上奇〜もすか〜將端に
梅の信よ居〜と〜もめな
は乃を迷〜ぬ月乃よ〜もに

上上

田舎もくもゆ^{ナカ}乃^{ナカ}——^{ナカ}な^{ナカ}わ^{ナカ}ね^{ナカ}

は歌の心乃^{ナカ}此^{ナカ}く^{ナカ}火宅^{ナカ}と^{ナカ}成^{ナカ}る^{ナカ}や

出^{ナカ}新^{ナカ}く^{ナカ}里^{ナカ}や^{ナカ}中^{ナカ}く^{ナカ}乃^{ナカ}事^{ナカ}く^{ナカ}わ

く^{ナカ}く^{ナカ}出^{ナカ}ぬ^{ナカ}さ^{ナカ}る^{ナカ}を^{ナカ}な^{ナカ}く^{ナカ}後^{ナカ}を^{ナカ}な^{ナカ}

歌^{ナカ}舞^{ナカ}乃^{ナカ}苦^{ナカ}檀^{ナカ}を^{ナカ}成^{ナカ}了^{ナカ}猶^{ナカ}ほ^{ナカ}さ^{ナカ}よ

正^{ナカ}月^{ナカ}子^{ナカ}お^{ナカ}る^{ナカ}ハ^{ナカ}火^{ナカ}宅^{ナカ}か^{ナカ}る

院^{ナカ}に^{ナカ}ニ^{ナカ}家^{ナカ}サ^{ナカ}出^{ナカ}お^{ナカ}う^{ナカ}ち^{ナカ}を^{ナカ}ま^{ナカ}了^{ナカ}

三^{ナカ}車^{ナカ}に^{ナカ}の^{ナカ}わ^{ナカ}お^{ナカ}さ^{ナカ}び^{ナカ}り^{ナカ}や^{ナカ}火^{ナカ}宅^{ナカ}乃^{ナカ}

つ^{ナカ}我^{ナカ}く^{ナカ}ろ^{ナカ}づ^{ナカ}に^{ナカ}成^{ナカ}る^{ナカ}ふ^{ナカ}ハ^{ナカ}成^{ナカ}お

正^{ナカ}を^{ナカ}う^{ナカ}け^{ナカ}う^{ナカ}さ^{ナカ}く^{ナカ}た^{ナカ}う^{ナカ}所^{ナカ}

和^{ナカ}哥^{ナカ}と^{ナカ}以^{ナカ}所^{ナカ}に^{ナカ}女^{ナカ}心^{ナカ}悦^{ナカ}ほ^{ナカ}の^{ナカ}め^{ナカ}ふ

う^{ナカ}わ^{ナカ}適^{ナカ}後^{ナカ}世^{ナカ}よ^{ナカ}く^{ナカ}あ^{ナカ}る^{ナカ}も^{ナカ}の^{ナカ}め

た^{ナカ}く^{ナカ}和^{ナカ}歌^{ナカ}乃^{ナカ}と^{ナカ}も^{ナカ}な^{ナカ}わ^{ナカ}ん^{ナカ}費^{ナカ}之^{ナカ}も

く^{ナカ}我^{ナカ}り^{ナカ}寄^{ナカ}る^{ナカ}あ^{ナカ}わ^{ナカ}へ^{ナカ}る^{ナカ}り

もけろ哉うぐさめと負頼冬
実々華の邦あら 見佛ゆは乃
数く火子乃孫いひや
月夜朝音み懐く九夜三仕儀
夜々きく娘芽にりわと夢り
酒庭乃松乃りを一あろ乃秋哉
もろか——と水葉脱子芽を



池水より清く月影を下化
衆生のおをえうわ東山陰陽乃
時夜も実光志く襟うらさ 表乃
乃花 色くう尺く祓ぐや
やあきりくろくやハ
実やさきう尺香に

めろろ者哉下地ハナカ更ニ

中三三二ト

思ふ神人我郎ハナカハ

ゴヒナガミナキをひとに

もろもんハナカハ中三三二ト

中三三二ト

是ろろ花ハ根のいそ是ちろ

下地

花ハハに香も少ふけりぬろ

とろろ文の終を吹電とやあ哉

人を見ず愛しう集乃うろろ

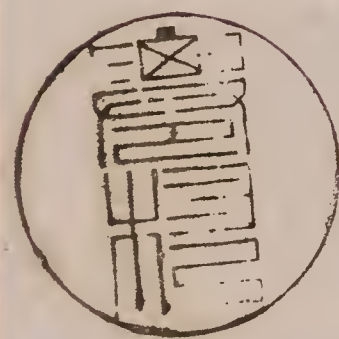
ソクミキきぬろハナカハ

中三三二ト

下三三二ト

さめにろわたり遊めろろ

ろろろろ



上海图书馆藏

